トピックス

パスポートのような「お薬手帳」への提案

大分大学　肝疾患相談センター　清　家　正　隆

昨年3月に別府で、大分県の薬剤師の皆様に肝炎シールのご紹介をさせていただいて、8か月が経過しました。反応はいかがでしょうか？　お薬手帳に肝炎シールを貼付し、お薬手帳を充実させようという主旨や肝炎患者の掘り起こしについてのコンセプトはご理解いただいたのではないかと思います。

大分県の毎年行っている「肝がん撲滅のための市民公開講座」のアンケートでは約半数の人が肝炎検査を受けていると認識しています。一方で肝炎検査を受けていない方や、検査を受けていても、その結果を知らないことも多いようです。そのため、何度も血液検査をうける方もいます。**一生に一回血液検査をすればいいのです。**

C型肝炎治療は最近、飛躍的な発展があります。今年の米国肝臓学会2016（ボストン）では12週間の治療だけではなく、8週間や6週間の内服治療も試みられています。不治の病のC型肝炎が本当に飲み薬で治るようになったのです。新規肝炎治療薬の、肝臓での、薬剤の代謝経路も明らかになっており、一方で薬の飲み合わせがとても多

薬剤師へのお願い
肝炎シールをお渡しする際の説明文（例）

肝炎検査

1．肝炎検査をしたことありますか？

2．一生に１回の検査でいいですよ。

お薬手帳

お薬手帳に肝炎シールを貼っておきますから、主治医に書いてもらってください。

肝炎シール

肝炎シールについてのお問い合わせは、肝疾患相談センターへお願いします。

ウイルス肝炎検査はお済みですか？　内視鏡を受けた方や入院したことがある方は既に検査はしているはずです。是非ご確認ください。一生に一度はうけましょう。

大分大学医学部附属病院　肝疾患相談センター：097-586-5504

肝炎シール
（ピンク　タテ：4㎝　ヨコ：3㎝）

くなっています。C型肝炎治療で大事なことはコンプライアンスだと思います。つまり、いかに一日一回内服してくれるかということです。

そのため、C型肝炎治療では飲み合わせの薬剤や飲み忘れなどの内服薬の管理を行っている薬剤師の協力が必要です。以前とは格段に**薬剤師に求められる役割が大きく、重要になっている**と思います。

さらに、私たち医師もお薬手帳を拝見する機会が多くなりました。そして、「**お薬手帳を持参しましたか**」と尋ねることも多いです。医師にとって、お薬手帳は、患者さんの大事な情報を把握するもっとも便利なツールになっています。大学で専門診療をしている医師も、他科の領域の治療薬剤の情報の把握は必要不可欠になっています。外国旅行ではパスポートを肌身離さず携帯し、ことあるごとにパスポートの提出を求められます。お薬手帳も患者さんにとってパスポートのような存在になるといいなあと思います。

医師は、あるいは検診での医療行為、つまり検査をした結果はお伝えする義務があります。しかし、肝炎検査は何度もしているのに、お伝えしていないことが多いような気がします。結果を印刷してお渡ししても、そのままゴミ箱へといったことも多かったのではないでしょうか？　そんなことを考えていたところ、肝炎シールを思いついたのです。医師やコメディカルと患者をつなげるもの、また患者の認識を高めさらに確実にするためのビジュアルなツールとして。

そこで、院外薬局を中心に肝炎シールを配布し、お薬手帳に貼っていただこうと考えたわけです。患者さんはそれをみれば私は肝炎ではないから、何度も検査をする必要はないとわかります。

幸い、大分県の薬剤師会長で、肝炎協議会の委員でもいらっしゃる安東先生に、主旨説明したところ進めていきましょうということになりました。肝炎シール意義は3つです。肝炎患者の掘り起こし。無駄な複数回の検査を避ける。ちゃんと検査したことは患者にお伝えする。ということです。お薬手帳を充実させるためにやっていきませんか？

具体的には図のようにやっていただければ幸いです。

この肝炎シールだけでは問題は片付きません。

薬剤師、医師、肝炎治療コーディネーター、糖尿病療養士を含め、行政・保健師の皆様の協力が必要です。肝炎患者の多くの皆様が治癒して、笑顔を取り戻している現状は素晴らしいものです。この肝炎シールが、まだ検査を受けていない方や治療を受けていない方へ新しい肝炎診療の情報を提供するきっかけになり、患者がお薬手帳をいつも持参するような習慣をもつ診療環境を構築できればと思います。